

福津のおサイフ事情

私たちの税金の使い道



▲原崎市長(右)にインタビューする吉原さん(左)

9月議会で、平成29年度決算が認定されました。決算とは、年度の始まりの4月から翌年3月までの1年間に、市の収入がどのくらいあり、どのようにお金を使ったかを数字で表したものです。税金や国からのお金がどのように使われたのか、広報ボランティアの吉原隆信さんが原崎市長にインタビューしました。

増え続ける人口 それとともに膨らむ歳出

吉原さん 市財政調整課から平成29年度の決算資料を見せてもらいましたが、歳入と歳出の差し引きが6億5383万円の赤字となっていてですね。平成28年度と比べると、歳入も歳出も増えています。どうして増えたのですか。

原崎市長 6億円以上の赤字と言っても、貯金を取り崩しているもので、実際の収支はそれほど赤字ではありません。

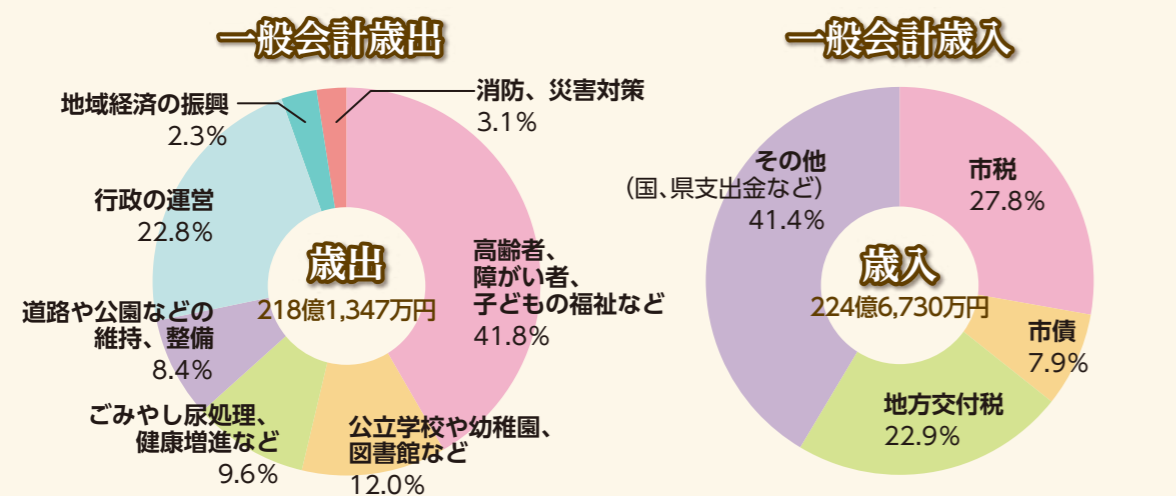
歳入も歳出も5%以上増えています。皆さんに納めていただいている税金は、人口が増えると増え、同じように、子どもや高齢者のために使うお金も人口に比例して増えていくんです。

吉原さん 人口が増えたことで歳入と歳出の規模が大きくなっているということですね。

黒字額が平成28年度と比べて約2億3千万円減少しています。黒字額が減少したということは、貯金の積み立てが減ったと考えていいのでしょうか。

原崎市長 そのとおりです。ただ行政は、民間企業のようにただだけ利潤を生んだのが大切とは言えません。歳入と歳出をしっかりと見込んで「予算をきちんと執行しました」ということも大切です。ふるさと納税や貯金が潤沢になれば、それを運用して利益を生むということになげられるのですが、現状では難しいですね。

歳入、歳出の決算状況



会計別	区分	歳入決算額	歳出決算額	歳入、歳出差引額
一般会計		224億6,730万	218億1,347万	6億5,383万
	(平成28年度決算額)	(213億3,111万)	(204億4,691万)	(8億8,419万)
特別会計	国民健康保険事業	76億6,197万	76億2,466万	3,731万
	後期高齢者医療事業	9億6,462万	9億3,331万	3,131万
	介護保険事業	47億9,440万	46億9,811万	9,629万
	住宅新築資金等貸付事業	1,153万	434万	719万
公共下水道事業会計	収益的収支	20億1,782万	18億5,510万	当年度純利益
	資本的収支	5億3,711万	10億2,033万	1億4,550万

※端数調整のため、差引額が合わないことがあります。(円)

子どもの福祉などにかかる費用が大きな割合を占めています。原崎市長 平成28年度から平成29年度にかけて人口が約1500人増えるなど、このところ著しく伸びています。また、他の市町村と違うのは、高齢者だけでなく、子どもも増えているところですね。

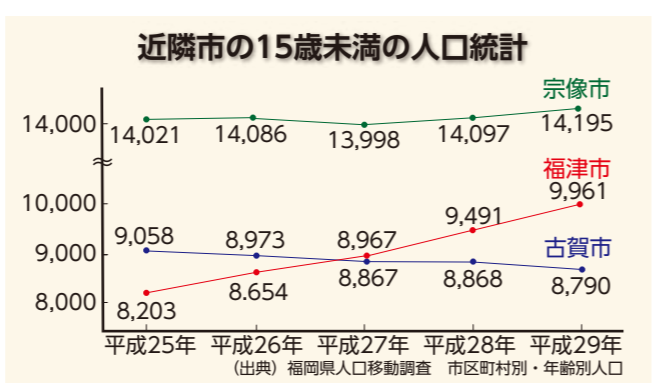
吉原さん 最近、市内の小中学校で大規模な工事が行われているのはそういうことなんですね。

原崎市長 児童数が急増している福間・福間南・津屋崎小学校では教室の確保が課題となっています。平成29年度、福間小学校では校舎の改修工事に着手し、仮設校舎を設置しました。福間南小学校は既存の校舎だけでは今後の児童数の増加に対応できないので、校舎を増築しました。また、学校だけでなく福間・津屋崎小学校には、それぞれ第3・4学童保育所を整備しました。

吉原さん 急いで施設整備を進めなければならなかったというわけですね。

全国的にも問題になっていますが、保育園の待機児童対策はどのようになっていますか。

原崎市長 平成29年度は、ひがしふくま真愛保育園を新築し、



70人だった定員が90人に増えました。また、双葉花見が丘保育園の建設にも取り掛かり、定員は40人なので、合わせて60人の定員増となりました。

以前から、計画的に保育園の整備や認定こども園の運営委託を進めてきましたが、それでもたくさんの方の待機児童がいます。新しい家が次々に建ち、移り住んで来る人たちは子育て世代が多いので、保育園の需要がとて多くなっていきます。今後も保育園の整備を計画していますが、それでも足りず、後追いになってしまっています。

街角記者が行く



～広報ボランティアの取材報告～

「街角記者が行く」とは、広報ボランティアが読者の皆さんを代表して記者となり、街角に出て、市や関連団体の取り組みを取材するコーナーです。記者の目線で、ときには歯に衣着せぬ物言いに関係者を取材し、皆さんの疑問に答えていきます。



▲コミュニティバス運行委託
3,997万円



▲消防団
装備充実化事業
311万円



▲観光産業活性化推進事業
1,625万円



▲観光PR事業
228万円



▲地方創生拠点整備事業
(あんずの里市改修工事委託料)
2億310万円



▲世界遺産登録活動事業
2,547万円



▲小学校施設大規模改造事業
3億7,078万円



▲松くい虫防除事業
1,329万円



▲がん検診推進事業
2,580万円



▲津屋崎庁舎再生整備事業 6億3,008万円

平成29年度はこんな 事業を実施しました

※写真は平成29年度事業の一例です。

世界遺産登録だけでなく
さまざまな事業を実施

原崎市長 この人口増加は、い
ずれ止まると思っています。でも、
いつか子どもが減るから、ピー
クを乗り越えるために今は仮設
校舎で我慢、とは考えていま
せん。できれば、ずっと若い世
代に移り住んでもらいたいと思
っている。小・中学校の整備
が必要です。

うれしい悲鳴と言えばそう
ですが、せつかく人が入って来
ているのに、抑制する政策をし
ようとは思いません。ただ人が
増えればいいというものでは
ないとも思っています。今こそ、
市にとって持続可能な、多世代、
多様な人が循環し、まちづく
りのために必要であれば、惜し
みに投資すべきだと考えてい
ます。

吉原さん 私も賛成です。話
は変わりますが、平成29年度の大
きな動きとして、7月に「神宿
る島」宗像・沖ノ島と関連遺産
群が世界文化遺産に登録され
ましたね。いろいろとお金がか
かっているんじゃないですか。
原崎市長 新原・奴山古墳群の
駐車場を拡張して展望所を整備

吉原さん 以前、津屋崎中学校
の生徒が古墳群のガイドをした
という新聞記事を見ました。せ
つかくの世界遺産ですので、子
どもにもそういう機会を与えて
教育に生かしていけるといい
ですね。

ところで、福津が注目されて
いると言えば、2018年の「住
みよさランキング」で九州1位
になったんですよ。やはり、
地域振興策などで人口が増えて
いることが関係しているん
です。
原崎市長 全国でも12位とい
うことで大変注目していただ
います。特に安心度と快適度が
上がったのですが、安心度は病
院や福祉施設の充実具合など
が指標となっていて全国9位。ま
た、快適度は人口増加率が指
標の一つとなっていて全国2位
でした。

この住みよさランキングで上
位になったことによって、市外
から注目されているのは確か
です。これを生かして、農業や漁
業、観光などの産業振興につな
げたいと考えています。
吉原さん 私も、市の活性化の
ためにも地域振興策は必要だ
と思います。昨年度も大きなイ

街角記者 吉原隆信
よしはら たかのぶ



福間南郷づくりの広報部
会に所属し、郷づくり広報「南
しよっと」の編集、発行を
手掛けています。

しました。解説板やトイレを
置いて、定期的な草刈りなど
もお金はかかりました。また、
展望所には、観光ボランティア
ガイドの皆さんが常駐し、古
墳群の説明をしてくれています。
旧津屋崎庁舎はカメラアス
タージに生まれ変わり、平成29
年7月にオープンしました。1階
の歴史資料館には、海外から
の観光客のために多言語対応の
古墳群紹介ビデオを放映して
います。
世界遺産に登録されるまでは
古墳群への来場者数は5千人
以下でしたが、昨年度は1万8
千人を超え、注目されているの
が数字に表れていますね。

ントがいくつも開催されてい
ましたね。
原崎市長 観光PR事業のほか、
鯛茶づけフェアなどを主催する
観光産業活性化協議会が、宮地
嶽神社の「光の道」の時期に合
わせて門前町サミットや九州食
の収穫祭を実施しました。また、
一昨年から販売を開始した津屋
崎千軒かきを売り出そうと「津
屋崎千軒かき巡り」を開催し、
テレビで紹介されるなど、話題
になりました。

こういった事業や、光の道が
注目されていることなどが功
奏し、平成29年度の観光客は5
60万人を超えました。これは
平成28年度の統計に当っては
めると、県内で6番目に多い観
光客数です。
吉原さん そう言えば、あんず
の里市でも津屋崎千軒かきが販
売されていましたね。

原崎市長 はい。あんずの里市
は農産物だけでなく、肉や魚、
加工品なども販売しているん
です。平成8年に直売所として
オープンしてから、2回の増築を
行ってきましたが、昨年度さら
に大規模な改修工事を行いました。
駐車場が拡大し、利便性は
向上していますよ。

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～



**下水道事業と上水道事業
宗像地区事務組合とは**

吉原さん 宗像地区事務組合に多額の負担金を支払っていますよね。どのような事業をしているのですか。

原崎市長 宗像地区事務組合は、福津市と宗像市が負担金を出し合って運営する独立した組織です。上水道事業に加え、消防、急患センターなども運営しています。ただ、下水道事業は市単独でやっています。

吉原さん 下水道事業はどういう状況なのですか。

原崎市長 平成20年度以降に下水道管の集中的な整備に取り組みました。その結果、下水道普及率は98%を超え、大部分の市民が下水道を利用できるようになっています。

集中的な整備のために多額の借金をしました。今後、その返済額が占める割合は大きいですが、これは将来への投資であって、市民サービスの向上につながっていきます。今後の課題としては、収支をより良くしていくために使用者を増やし、収益を上げることが重要です。

吉原さん では、宗像地区事務

組合への負担金はどのくらいなのですか。

原崎市長 14ページに宗像地区事務組合の決算報告がされていますが、これらの事業には数十億円の費用がかかっています。それに対して、市の負担は8億8千万円ほどです。宗像市と共同で事業を実施し、さらに、水道事業を北九州市に包括委託することで、経費削減につながっています。

でも、人口が増加したことによって、救急隊を増員しなければならぬなど、市民の皆さんの安全を守るための課題も抱えていますので、負担金は増えていきます。

吉原さん そうなんですか。少し聞いたことがあるんですが、北九州市から水を買っているんですか。

原崎市長 北九州市と福岡都市圏を結ぶ連絡管の整備などによって水源が確保できるようになり、宗像地区事務組合が北九州市と福岡地区水道企業団から水を買っています。市には、唯一の水源として久末ダムがありますが、平成28年4月以降、東部浄水場は休止していて、ダムの水は1滴も使っていないんです。

**市の財政状況は
今のところ健全**

吉原さん ところで、市の財政は健全なのでしょうか。

原崎市長 どれだけ自由に使えるお金があるかの指標である経常収支比率は93・3%で、100%に近いほど財政に余裕がないことを示します。財政状況は厳しいと言わざるを得ません。ただ、財政が厳しいことと、健全かどうかは別の話で、市はそ

の中で、良い行政サービスをしなければなりません。

吉原さん 財政状況は厳しいのですね。やはり借金も多くなっているのですか。

原崎市長 市債の残高は下の



▲健全な財政運営を、と市長に話す吉原さん

ラフのとおりですが、市は借金だけでなく貯金もあるんです。これを基金というのですが、どちらも過去5年間はほぼ横ばい

です。

吉原さん 貯金に比べて、借金が多いですね。こんなに借金して大丈夫なんですか。

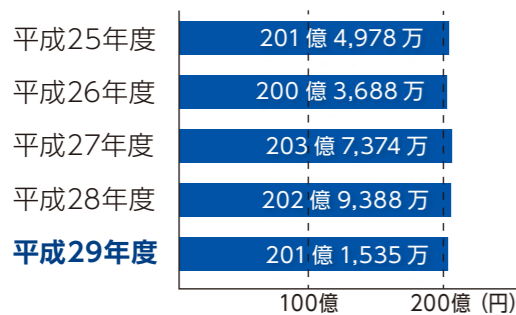
原崎市長 借金が多いと不安になります。ここでの借金は必ずしも悪いことではないんです。例えば、学校や道路はこれからの継続して使っていくもので、それを今使っている人たちだけでなく、将来使う人たちと負担を分け合います。という考えで借金をしています。ただ、自治体の規模に見合わない多額の借金をするわけにはいかない

ので、下の健全化判断比率で確認をしています。

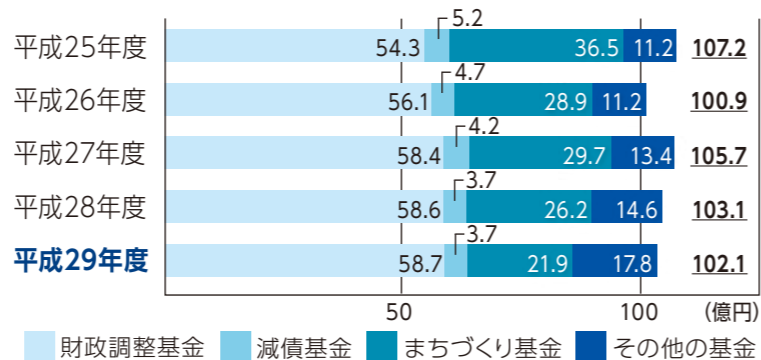
吉原さん 今の子どもたちに負担を残すことが世間的に問題視されていますが、表の将来負担比率を見ると、早期健全化基準を超えていないようですね。

原崎市長 確かに、平成29年度は、基準を下回っていますので、市の財政状況は今のところ健全だと言えますが、油断大敵です。**吉原さん** これからも健全な財政の維持に期待しています。

市債（借金）残高の推移（一般会計）



基金（貯金）残高の推移（一般会計）



健全化判断比率

指標	内容	結果	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	12.95%
連結実質赤字比率	一般会計のほか、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の割合	赤字なし	17.95%
実質公債費比率	市の平均的な年間収入に対する借金返済額の割合	6.3%	25%
将来負担比率	市の平均的な年間収入に対する将来に負担が見込まれる負債の割合	2.2%	350%

※早期健全化基準を超えると国の定めに従い、健全化に向けた取り組みが必要となります。

街角記者が行く

～広報ボランティアの取材報告～



▲下水道が整備され、宅地開発が進んだ福岡駅東